

E 普及・参考事項並びに試験研究の成果

1. 平成 26 年普及奨励事項、普及推進事項、指導参考事項、研究参考事項並びに行政参考事項

平成 25 年度北海道農業試験会議（成績会議）において、当年度までに完了した試験研究成績について、普及、研究、行政に提供される事項を決定した。そのうち、現場が担当または分担した提出課題（農業資材・農業機械性能調査関係課題を除く）は次のとおりである。

(1) 普及奨励事項

－優良品種－

（作物開発部会）

- 水稲新品種候補「空育180号」（生産研究部水田農業グループ）
- 水稲新品種候補「きたしずく」（空育酒177号）（生産研究部水田農業グループ）

(2) 普及推進事項

－優良品種－

（作物開発部会）

- ぶどう新品種候補「GHC1」（作物開発部作物グループ）

－推進技術－

（生産システム部会）

- 成苗ポット苗における早期異常出穂抑制技術（上川農試生産環境グループ、生産研究部水田農業グループ）

（農業環境部会）

- 秋まき小麦「きたほなみ」の生産実績を活用した窒素施肥設計法と生育管理ツール（農業環境部栽培環境グループ、農業研究本部企画調整部地域技術グループ、上川生産環境グループ、上川地域技術グループ）

（病虫部会）

- 小麦の雪腐褐色小粒菌核病および褐色雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除時期（病虫部クリーン病害虫G、上川農試生産環境G）
- かぼちゃの突起果の発生原因解明（病虫部クリーン病害虫G、上川農試地域技術G）

(3) 指導参考事項

（作物開発部会）

- 道央転換畑地帯の大豆狭畦栽培における適正な栽植密度（作物開発部作物グループ、農業研究本部企画調整部地域技術グループ）

- 硬質秋まき小麦「つるきち」の品種特性に対応した当面の栽培法（中央農試作物開発部作物グループ、北見農試研究部麦類グループ、上川農試研究部地域技術グループ、十勝農試研究部地域技術グループ）

- りんごの品種特性（作物開発部作物グループ）

- 西洋なしの品種特性（作物開発部作物グループ）

（花野菜部会）

- 秋季安定生産に向けたトマト3段密植栽培技術と経済性（花野菜・花き野菜グループ、生産研究部生産システムグループ）

（農業環境部会）

- 近赤外分光法による大豆イソフラボン含量の非破壊評価法（作物開発部農産品質グループ、食品加工研究センター食品バイオ部食品バイオグループ）

- 超強力小麦「ゆめちから」の品質変動とブレンド粉の加工適性（中央農試作物開発部農産品質グループ、農業環境部栽培環境グループ、農業研究本部企画調整部地域技術グループ、上川農業試験場研究部生産環境グループ・地域技術グループ、十勝農業試験場研究部生産環境グループ・地域技術グループ、食品加工研究センター食品開発部食品開発グループ）

- エチレン処理による生食用馬鈴しょの長期貯蔵技術（作物開発部農産品質グループ、十勝農試地域技術グループ）

- 水稲種子の粒厚が発芽および苗形質に与える影響（遺伝資源グループ）

- 大豆作付け圃場におけるアーバスキュラー菌根菌の感染実態と前作を考慮したリン酸減肥指針（生産研究部水田農業グループ、十勝農試生産環境グループ）

- 春まき小麦に対する「けい酸加里」の施用効果（生産研究部水田農業グループ）

- 子実用とうもろこしの栽培法と道央地域における輪作体系への導入効果（農業環境部環境保全グループ、生産研究部生産システムグループ、病虫部クリーン病害虫グループ、十勝農試研究部生産環境グループ、畜試基盤研

究部飼料環境グループ)

○北海道耕地土壌の理化学性の実態・変化とその対応 (1959～2011年) および炭素貯留量 (農業環境部環境保全グループ、農業環境部栽培環境グループ、生産研究部水田農業グループ、上川農試研究部生産環境グループ、上川農試天北支場地域技術グループ、道南農試研究部生産環境グループ、十勝農試研究部生産環境グループ、根釧農試研究部飼料環境グループ、北見農試研究部生産環境グループ、花野センター研究部生産環境グループ)

○道央水田転換畑における秋まき小麦「きたほなみ」の大豆畦間ばらまき栽培技術 (農業環境部栽培環境グループ、企画調整部地域技術グループ)

○子実用とうもろこしの栽培法と道央地域における輪作体系への導入効果 (中央農試・農業環境部・環境保全グループ、病虫部・クリーン病害虫グループ、生産研究部生産システムグループ、畜試・基盤研究部・飼料環境グループ、十勝農試・研究部・生産環境グループ)

(病虫部会)

○平成25年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫 (北海道立総合研究機構農業研究本部、北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター)

○穂いもち圃場抵抗性ランクに対応した水稻のいもち病本田防除基準 (病虫部クリーン病害虫G、上川農試生産環境G)

○水稻の割籾歩合ランクに対する圃場レベルでの実用性評価 (病虫部クリーン病害虫G、上川農試生産環境G)

○特別栽培のためのばれいしょ疫病の防除体系 (病虫部クリーン病害虫G、十勝農試生産環境G)

○採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型採苗方式における病害虫管理指針 (病虫部予察診断G、クリーン病害虫G、花・野菜技術センター、そらち南農業協同組合、千葉県農林総合研究センター)

○醸造用ぶどうのつる割細菌病の病因解明と当面の対応 (病虫部予察診断G、作物開発部作物G、企画調整部地域技術G)

(生産システム部会)

○有機トマトを導入する小規模経営の安定化方策 (生産研究部生産システムグループ)

○ハイブリッド型膜モジュール内蔵バイオガス精製装置 (生産システムグループ)

○「ゆめぴりか」のアミロース含有率早期予測法 (上川農試生産環境グループ、生産研究部水田農業グループ)

(4) 研究参考事項

(作物開発部会)

○北海道米の業務用適性評価 (作物開発部農産品質グループ、生産研究部水田農業グループ)

○手亡あん着色要因の解明と簡易あん色評価法 (作物開発部農産品質グループ、十勝農試研究部豆類グループ) (農業環境部会)

○エネルギー作物としての多年生草本の生育特性と導入の可能性 (農業環境部栽培環境グループ、根釧農試研究部飼料環境グループ)

(5) 行政参考事項

2. 論文ならびに資料

(1) 研究論文、試験成績

作物開発部

○ Kazuyuki Okamoto, Noriaki Aoki, Haruka Fujii, Tetsuji Yanagihara, Aiko Nishi, Hikaru Satoh, Takayuki Umemoto. Characterization and Utilization of Spontaneous Deficiency in Starch Branching Enzyme I of Rice (*Oryza sativa* L.) . Journal of Applied Glycoscience. Vol.60 No.1 p53-60 (2013)

○小林哲也, 青山好男. 次亜塩素酸ナトリウムで前処理を受けた好熱性好酸性菌芽胞の耐熱性. 日本防菌防黴学会誌. 42, (3), p.117-120 (2014)

○ Suzuki, T., Yoshii, T., Fujita, S., Shimada, H., Takeuchi, T., and Kondo, N. DNA markers linked to *Pgal1*, an adzuki bean gene that confers resistance to *Cadophora gregata* race 1. Breeding Science 63, p. 353-357 (2013)

○ Yamashita, Y., Takeuchi, T., Ohnishi, S., Sasaki, J., and Tazawa, A. Fine mapping of the major Soybean dwarf virus resistance gene *Rsdv1* of the soybean cultivar 'Wilis'. Breeding Science 63, p. 417-412 (2013)

生産研究部

○鈴木 剛. ドイツ バイエルン地方で行われているトランスボーダーファーミングとは?. グリーンテクノ情報vol.9 No. 2. p. 27-32(2013. 10)

○濱村寿史, 白井康裕, 三宅俊輔. クリーン農業技術導入による温室効果ガス排出量変化の推計. 北農. 80-4, p. 40-48 (2013. 10)

○原圭祐, 稲野一郎. 光学式選別機を組み込んだ小麦の効率的な調製体系. 農業食料工学会誌. 76 (1), p. 92-98

○長田亨, 五十嵐俊成, 吉田慎一. ブランド米生産に向けた「ゆめぴりか」の栽培指針. 北農. 80, p.241-248(2013)

○木下雅文. 冷凍米飯(ピラフ)に適する米品種とその加工適性. 日本冷凍空調学会誌「冷凍」. 89, p.13-19(2013)

○塚本康貴. 道総研農業試験場における農業農村工学研究. 農業農村工学会誌. 81-5, p.7-10(2013)

○塚本康貴. 地域農業の発展と持続的な農業生産活動のための基盤整備の役割. 農業農村工学会誌. 81-10, p.9-12(2013)

農業環境部

Keiko Minato, Yasuyuki Kouda, Masaaki Yamakawa, Satoshi Hara, Tadashi Tamura and Takashi Osada. Determination of GHG and ammonia emissions from stored dairy cattle slurry by using a floating dynamic chamber. *Animal Science Journal*. 84, p165-177

○ budgets Ryuichi Hirata, Akira Miyata, Masayoshi Manoa, Mariko Shimizu, Takatoshi Arita, Yasuyuki Kouda, Shoji Matsuura, Mitsuhiro Niimi, Toshiya Saigusa, Akinori Mori, Masayuki Hojito, Osamu Kawamura, Ryusuke Hatano. Carbon dioxide exchange at four intensively managed grassland sites across different climate zones of Japan and the influence of manure application on ecosystem carbon and greenhouse gas budgets. *Agricultural and Forest Meteorology*. 177, p57-68

○ Mariko Shimizu, Ryusuke Hatano, Takatoshi Arita, Yasuyuki Kouda, Akinori Mori, Shoji Matsuura, Mitsuhiro Niimi, Tao Jin, Alexey R. Desyatkin, Osamu Kawamura, Masayuki Hojito, Akira Miyata. The effect of fertilizer and manure application on CH₄ and N₂O emission from managed grasslands in Japan. *Soil Science and Plant Nutrition*. 59, p69-86

○細淵幸雄, 日笠裕治. 温泉水で加温される周年被覆ハウス土壌のホウ素蓄積およびトマト、キュウリの過剰症状発生とその軽減対策. 日本土壌肥科学雑誌. 84(4), p.293-298(2013)

○古館明洋, 濱村寿史, 小野寺政行, 平石学, 日笠裕治. 粘質たまねぎ畑の下層土改善に及ぼす秋まき小麦・後作緑肥導入の影響と経済性評価. 北農. 80(3), p.270-278(2013)

○古館明洋, 小野寺政行, 須田達也, 日笠裕治. 晩春まきブロッコリー及び秋まき小麦「きたほなみ」に対する被覆尿素肥料を用いた省力的施肥法. 北農. 80(4), p.391-397(2013)

○岡元英樹, 古館明洋, 吉澤晃, 大橋優二. イタリアンライグラスを用いた無除草剤雑草防除技術は天北地方へも適用できる. 北農. 80(2), 159-163(2013)

○岡元英樹, 古館明洋, 吉澤晃, 大橋優二, 内田幸司・雲義美, 谷口智哉. 天北地方の鉍質土壌草地におけるイタリアンライグラスを用いた無除草剤更新技術の適用性. 北農. 80(3), 294-300(2013)

○鈴木慶次郎, 中村隆一. オホーツク地域におけるタマネギ畑の耕盤層破砕が窒素収支の改善などの環境保全に及ぼす効果. 日本土壌肥科学雑誌. 85(1), p.17-25(2014)

○山名利一, 小野寺政行, 鈴木慶次郎. タマネギの紅色根腐病に対する品種の抵抗性評価とかん水処理の効果. 北農. 81(1), p.19-25(2014)

○櫻井道彦, 中辻敏朗, 日笠裕治. 有機栽培露地野菜畑の土壌診断に基づく窒素施肥対応の構築. 日本土壌肥科学雑誌. 84(4), p.285-292(2013)

病虫部

○齊藤美樹・高久元. ホウレンソウ圃場で確認されたヤドリダニ類のホウレンソウケナガコナダニ捕食能力. 日本ダニ学会誌. 22巻, p.37-43(2013)

○橋本庸三. 登熟期の玄米吸汁がアカヒゲホソミドリカスミカメの卵休眠性に及ぼす影響. 北日本病害虫研究会報. 64, p.140-142(2014)

○荻野瑠衣・橋本庸三. 北海道におけるアカヒゲホソミドリカスミカメに対する1回散布防除の適期と適用薬剤の検討. 北日本病害虫研究会報. 64, p.136-139(2014)

○栢森美如, 堀田治邦. *Pseudocercospora capsellae*によるコマツナ白斑病(新称). 北日本病害虫研究会報. 64, p.57-59(2014)

○小野寺鶴将. ダイズ子実の粒大とマメシクイガによる被害粒率との関係について. 北日本病害虫研究会報. 64, p.153-156(2013)

○岩崎暁生, 荻野瑠衣, 小野寺鶴将. 北海道におけるアズキゾウムシの野外寄生の確認と産卵時期の推定. 北日本病害虫研究会報. 64, p.171-175(2013)

○三澤知央, 小松 勉, 辻 英敏. *Rhizoctonia solani* AG-1 ICによるニンジン苗立枯病. 北日本病害虫研究会報. 64, p.76-80(2013)

企画調整部地域技術グループ

○田中一生. 平成25年度NATEC(地域農業技術センター連絡会議)の活動. 北農81(2), p.74~76(2014)

企画調整部企画課

○杉本昌仁. 肉牛生産における自給飼料の活用に関する

研究について. 北海道畜産草地学会報 1, p.39-46. (2013)

(2) 口頭発表 (ポスター発表含む)

作物開発部

- 藤田正平, 鴻坂扶美子, 大西志全, 田中義則, 三好智明, 越智弘明, 手塚光明, 白井和栄, 萩原誠司. 多収、極大粒でシストセンチュウ抵抗性の黒ダイズ新品種「つぶらくろ」の育成. 育種学研究. 15(別2). p. 180 (2013.10.13)
- 木口忠彦, 相馬ちひろ, 藤田涼平, 中山輝. ポテトチップ用バレイショ新品種「北育 15 号」における施肥量・栽植密度反応の地域間差異. 日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報 54, p99-100(2013.12.7)
- Kousaka, F., Shimamura, S., Nakamura, T., Hiraga, S., Maekawa, T., Shimada, S., Fujita, S. Response of soybean (*Glycine max*) waterlogging tolerant variety - "Shoku-kei32" to short-term soil flooding. 11th conference of the international society for plant anaerobiosis. Program and Abstract book. p. 121(2013)
- 小谷野茂和, 中道浩司, 中川良二, 黒崎英樹, 小宮山誠一, 柳原哲司, 加藤淳, 近赤外分光法による大豆イソフラボンの非破壊評価法. 日本食品科学工学会 2014 年北海道支部大会講演要旨集 p.14 (2014)
- Minako Iketani-Saito, Toshikazu Yamana, Seiji Yamada, Tadahiko Kiguchi, Toshimichi Okubo, Ryuichi Nakamura, Toshio Tsuchiya. Occurrence conditions and control measures of rhizomania in sugar beet in Okhotsk District of Hokkaido. 9 th Symposium of the International Working Group on Plant Viruses with Fungal Vectors (IWGPVVFV). (2013.8.20-22)
- 小倉玲奈, 田澤暁子, 島田尚典. アズキ萎凋病菌レース 4 抵抗性の遺伝資源の探索. 北日本病害虫研究会第 67 回研究発表会 (2014.2.20)
- 鈴木孝子, 足利奈奈, 神野裕信. 6B 染色体に座乗する「蘇麦 3 号」由来の赤かび病抵抗性 QTL. 日本育種学会第 125 回講演会. 育種学研究 16(別1), p.243 (2014.3.22)
- 梅本貴之, 幸谷かおり, 藤井はるか, 柳原哲司, 池ヶ谷智仁, 芦田 (吉田) かなえ, 石井卓朗. デンプン易糊化変異の導入による餅の硬化抑制. 日本作物学会紀事別号 (講演会要旨・資料集) 第 237 回日本作物学会講演会. P252-253 (2014)
- 山下陽子, 船附秀行, 山口直矢, 大西志全, 鴻坂扶美

子. 高温年に発生する「トヨムスメ」特有の裂皮に関する QTL. 日本育種学会第 124 回講演会. 育種学研究 15(別2), p. 299 (2013.10.13)

○山下陽子, 鴻坂扶美子. 「植系 32 号」由来の開花期耐湿性 QTL. 日本育種学会第 125 回講演会. 育種学研究 16(別1), p. 199(2014.3.22)

○竹内 徹. 北海道における病害防除戦略. 第 1 回生態と防除研究会(2013.12.17)

遺伝資源部

○浅山聡. コムギ褐色雪腐病抵抗性の圃場検定法の開発: 基準品種の選定. 日本作物学会第 237 回講演会. 日作紀 83 (別1). p.220-221 (2014)

○平井泰. ガラス化法 (PVS2 法) の長期保存事業 (ジャガイモ遺伝資源) への展開. 第 31 回日本植物細胞分子生物学会 (札幌) シンポジウム (2013.9.12)

生産研究部

○Takahisa Hinata. A Current State of Carbon Footprinting and Case Study of Dairy Farming in Japan ~Focusd on Producing. IDF World Dairy Summit 2013, Dairy Summit Abstract p.13-14(2013.11.1)

○白旗雅樹. 近年の気象条件が作業可能日数に及ぼす影響の解析. 日本気象学会北海道支部2013年大会講演要旨集, B15-16(2013)

○日向貴久. 集落営農法人と地域における支援組織との関係. 道総研第1回集落活性化研究会資料集, p.1-6(2013.11.7)

○日向貴久. 喜茂別の農業の動向と地域振興策. 道総研第1回集落活性化研究会資料集, p.7-27(2013.11.7)

○平石学. 北海道水田農業の規模拡大の可能性. 2013年度北海道農業経済学会大会シンポジウム資料集, p.7-13 (2013.9.14)

○平石学. 農業センサスから予測するオホーツク農業・農村の近未来. 「オホーツク農業の将来とたまねぎ生産」講演要旨集, p.1-2 (2013.11.13)

○塚本康貴. 道央転換畑での暗渠清掃用施設を利用した地下灌漑技術. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 59, p.5 (2013)

○塚本康貴. 大区画圃場における基盤整備技術. 農業農村工学会北海道支部第34回シンポジウム要旨集. p.83-86 (2013)

○尾崎洋人. 酒造好適米開発の取り組み経過と今後の展望. 北醸研. 43, p.7-13(2013)

○尾崎洋人. イネいもち病抵抗性強品種「きたくりん」の育成. 日本植物病理学会北海道部会年報. 41, p.7-12

(2013. 10).

農業環境部

○板垣英祐・笹木伸彦・渡辺祐志・武田尚隆・中住晴彦・日笠裕治. 大規模そば栽培のためのリビングマルチを活用した不耕起栽培技術の開発. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 59, p.116 (2013)

○岡元英樹, 古館明洋, 新宮裕子, 大橋優二. ペレニアルライグラス単播草地における兼用利用時の窒素施肥配分—実放牧試験による実証—. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 60, p.123(2013)

○岡元英樹, 古館明洋. チモシー晩生品種に対する1番草刈取後の利用形態と施肥が牧草生産と植生に及ぼす影響. 日本草地学会誌. 60別, p.146(2014)

池田成志, 鈴木慶次郎, ○河原誠, 高橋直和, 皆川彰, 能代昌雄. ウレアホルム入り肥料で栽培したタマネギ鱗茎部およびテンサイ主根部の微生物群集構造解析. 日本土壌微生物学会講演要旨集. p. 33(2013)

○ Makoto Kawahara, Keijiro Suzuki, Naokazu Takahashi, Masao Noshiro and Seishi Ikeda. A Urea-Formaldehyde Fertilizer Increases the Diversity of Bacterial Communities in Onion and Sugarbeet. 第18回国際窒素固定会議(2013)

○櫻井道彦, 中辻敏朗, 日笠裕治. 有機栽培タマネギの窒素肥効に及ぼす有機質資材種と分施の影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 59, p.133 (2013)

○杉川陽一, 中辻敏朗, 岡崎圭毅, 田中福代, 日笠裕治. 有機・慣行栽培コマツナにおける生育日数の経過が品質成分に及ぼす影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 59, p.89(2013)

病虫部

○齊藤美樹. 複数回耕起のハウレンソウケナガコナダニ密度低減効果. 第58回日本応用動物昆虫学会大会 (2014).

○齊藤美樹. 粒状有機質肥料の土壌表面散布によるハウレンソウケナガコナダニ被害軽減効果. 2013年度日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催北海道支部大会(2014).

○東岱孝司・田澤暁子. ダイズシストセンチュウ抵抗性アズキ遺伝資源栽培による密度低減効果(予報). 日本線虫学会(2013).

○東岱孝司. アズキ茎腐細菌病の同定・生態と防除. 第1回生態と防除研究会 (2013)

○橋本庸三. 2013年のイネと小麦と畦畔雑草におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの産卵消長. 第67回北日本病害虫研究発表会(2014).

○橋本庸三. アカヒゲホソミドリカスミカメのイネとスズメノカタビラにおける産卵消長. 第58回日本応用動物昆虫学会大会 (2014).

○荻野瑠衣・橋本庸三. 道央におけるアカヒゲホソミドリカスミカメに対する1回散布防除の適期の検討. 第67回北日本病害虫研究発表会(2014).

○野津あゆみ, 児玉不二雄. 北海道におけるタマネギ灰色腐敗病菌の再同定. 日本植物病理学会報. 80, p62. (2013)

○清水基滋. 北海道における気象データを活用した病害虫発生予察の現状と課題. 日本農業気象学会 2014年全国大会, オーガナイズドセッション. (2014)

○武澤友二. 北海道のタマネギで多発したネギハモグリバエの被害. 第66回北日本病害虫研究発表会. (2014)

企画調整部地域技術グループ

○田中一生, 岩間和人. 北海道と府県の酒造好適米における醸造適性の比較 第2報 各品種における産地変異. 日本作物学会第236回講演会要旨集・資料集. 作物学会紀事82(別2), p. 106-107(2013)

○田中一生, 岩間和人. 北海道の酒造好適米と府県米の醸造適性の比較 第2報 各品種における産地変異. 日本育種学会・日本作物学会北海道談話会報. 54, p. 5-6 (2013)

○稲川 裕. 新たな果実加工品の開発の取り組み 道産果実を使った無添加フルーツコンポート. 北海道果樹懇話会第15回研修会資料. p. 19-21 (2013)

企画調整部企画課

○糟谷広高・大井幹記・齋藤早春・遠藤哲代・及川学・杉本昌仁・宝寄山裕直. 濃厚飼料中のイアコーンサイレージ混合割合が黒毛和種去勢肥育牛の飼料摂取量、血液成分および枝肉成績に及ぼす影響. 日本畜産学会第116回大会. (2013)

○大井幹記・齋藤早春・遠藤哲代・杉本昌仁・藤川朗. 小麦を原料とした乾燥エタノール蒸留残渣の黒毛和種経産肥育牛への給与効果. 肉用牛研究会第51回大会. (2013)

(3) 専門雑誌記事

作物開発部

○阿部珠代. 農学校1年1組小麦の時間, ニューカントリー. 717, p86-87(2013)

○藤田正平. 北海道におけるアズキ土壌病害抵抗性育種の現状. 植物防疫. 67, p423-430 (2013)

○藤田正平. 多収で裂皮が少ない極大粒大豆新品種「ゆ

めのつる」。農業日誌（平成26年）。p202-203（2013）

○藤田正平。粒が極めて大きい大豆品種「タマフクラ」。農業日誌（平成26年）。p332-333（2013）

○木下雅文，藤井はるか，熊谷 聡，西村 努。平成25年度水稻府県生産流通調査報告書。北海道米麦改良。97，p.1-7(2013)

○小宮山誠一。秋まき小麦「きたほなみ」近赤外分光法によるフォーリングナンバー迅速評価，ニューカントリー。712，p54-55(2013.7)

○前野眞司。畑地の主要雑草と防除体系。ニューカントリー。2月号，p.13-16(2014)

○小倉玲奈，山下陽子。生物工学セミナー(90)。北農。80，p.101(2013)

○齋藤優介。新規利用向け菜豆（赤インゲンマメ）の品質評価に関する研究。豆類時報，72，p.9-15(2013)

○内田哲嗣。西洋なしの半追熟出荷技術。農家の友8月号。p.29-31（2013）

○内田哲嗣。西洋なしの半追熟出荷技術。果実日本8月号。p.81-84（2013）

○内田哲嗣。西洋なしの半追熟出荷技術。あぐりぼーと。2月号，p.14(2014)

遺伝資源部

○鈴木和織。大豆の出芽不良に係る種子の要因解析。ニューカントリー。1月号（718号），P100-101(2014)

生産研究部

○濱村寿史。温暖化ガス排出量の簡易な推計手順確立。ニューカントリー3月号 p.50-51(2014)

○平石学。農業センサスから見た農業・農村の動向予測と対策。農家の友11月号，p.100-102（2013）

○稲野一郎。けん引爪耕起作業機の特徴と土壌物理性の効果。あぐりぼーと。107，p.4-5（2014）

○稲野一郎。排水改善のポイント②砕土・整地。ニューカントリー。9月号，p.36-37(2013)

○鈴木 剛。小麦の時間【収穫と乾燥調製】。ニューカントリー7月号。712，p.52-53(2013)

○鈴木 剛。野菜栽培の機械化の現状と課題。ニューカントリー2013年秋季臨時増刊号。p.63-66(2013)

○鈴木 剛。排水改善のポイント③心土破碎。ニューカントリー10月号。715，p.32-33(2013)

○鈴木 剛。排水改善のポイント④管理機械の活用。ニューカントリー11月号。716，p.30-31(2013)

○鈴木剛。-トランスボーダーファーミングとは- 仮想的のうち集約に取り組む。機械化農業，p.21-26(2014.1)

○長田亨。ブランド米生産に向けたアミロースとタンパクの目標設定。ニューカントリー。711，p.54-55(2013)

○長田亨。ブランド米生産に向けた「ゆめぴりか」の栽培指針。アグリポート。No106 p.6-7(2013)

○塚本康貴。道央転換畑での後作緑肥や密植・培土・追肥によるダイズ生産性向上技術。土づくりとエコ農業4/5月号 p.2-7(2013)

○塚本康貴。干ばつなんて怖くない！地下灌漑で転作物の安定生産。農家の友7月号，p.34-35(2013)

○塚本康貴。排水改善のポイント⑥圃場内明渠の施工。ニューカントリー。718，p.38-39(2013)

○塚本康貴。土づくりによる対策①作付けの工夫。ニューカントリー。719，p.38-39(2013)

○塚本康貴。土づくりによる対策②堆肥と緑肥の活用。ニューカントリー。720，p.38-39(2013)

農業環境部

○加藤 淳。小豆「きたろまん」の特徴を活かした商品開発。農家の友。10月号，p.36-38(2013)

○竹内晴信。機械を使いこなし、水はけ改善「水田転換畑の排水対策」。ニューカントリー。711，p.50-51（2013）

○富沢ゆい子。有機栽培に対応した果菜類の育苗培土作製法。土づくりとエコ農業。25(2)，p.33-37(2013)

○古館明洋。秋まき小麦・後作緑肥導入による粘質たまねぎ畑の下層土改善。あぐりぼーと。102，p.8(2013)

○古館明洋。技術特集 たまねぎの安定生産 根張り深い秋まき小麦が浅部堅密層を縮小させる[土壌物理性の改善で増収]。ニューカントリー6月号，p.12-14(2013)

○古館明洋。秋まき小麦および後作緑肥導入でタマネギ増収。農家の友7月号，p.42-44(2013)

○古館明洋。第8回農学校1年1組小麦の時間【新しい栽培技術】粘質な転換畑では簡易耕や不耕起栽培を活用しよう。ニューカントリー月号，p.952-53(2013)

○古館明洋。ブロッコリー・秋まき小麦肥効調節型「被覆尿素肥料」の窒素溶出率と施用法。ニューカントリー11月号，p.34-35(2013)

○古館明洋。被覆尿素肥料を利用して追肥を省略 北海道における秋まき小麦と晩春まきブロッコリーへのセラコート R の施用法。北から南から（セントラル化成の農業だより）。339，p.2-7(2013)

○坂口雅己。農業試験場における有機農業研究の成果。北海道有機農研。94，p.4-5（2013）

○杉川陽一。こまつな 有機栽培による高品質化を実証 生育日数を長くすることで、糖分高まり、硝酸塩も低下。ニューカントリー。711，p.52-53（2013）

○杉川陽一。有機コマツナの収量と品質を高める栽培法。北海道有機農研。94，p.6-7（2013）

○杉川陽一。小麦の穂水分測定による成熟期予測法と

2013年「ゆめちから」の穂水分低下傾向. 農家の友. 65(12), p.38-39 (2013)

○杉川陽一. 有機コマツナの品質を高める栽培法—ゆっくり育てて、糖分上昇・硝酸塩低下—. 土づくりとエコ農業. 46(2), p.28-30 (2013)

病虫部

○齊藤美樹. ホウレンソウケナガコナダニ防除における捕食性ヤドリダニ類利用の可能性. 植物防疫. 67. p. 631-636 (2013)

○相馬潤. 農学校1年1組 小麦の時間 病害虫防除 ニューカンントリー6月号. p82-83

○東岱孝司. アズキ茎腐細菌病の発生生態と防除. 植物防疫. 68. 36-43 (2014)

○小松 勉. 平成25年に特に注意を要する病害虫. あぐりぽーと. p. 103, p. 8-9 (2013)

○小野寺鶴将. 大豆のマメシクイガに対する防除適期の判断手法と被害軽減対策. グリーンレポート. 530, p. 10-11 (2013)

○小野寺鶴将. 評価高い産産大豆を安定供給-病害虫の発生を想定して防除技術を組み合わせる. ニューカンントリー. 716, p. 15-18 (2013)

○武澤友二. ネギアザミウマ 被害多発と合成ピレスロイド剤抵抗性部尾除対策. 農家の友. 65(9), p.42-43 (2013)

○清水基滋. 北海道畑作地帯の農産物加工場で発生する排出土およびジャガイモでん粉粕の消毒. 植物防疫. 67, p.602-606 (2013)

○清水基滋. 特集 2013 作物展望 病害虫. ニューカンントリー. 706, p.54-55 (2013)

○道総研中央農試病虫部予察診断グループ. 平成 25 年度に北海道で新たに発生を認めた病害虫. 農家の友 66 (3), p.4-11 (2014)

企画調整部地域技術グループ

○田中一生. イネばか苗病の緊急対策. 農家の友. 65(9), p. 36-38 (2013)

○笛木伸彦. 高収量・高糖分のてん菜づくり. 生産者自らが実施可能な排水改良. ニューカンントリー7月号. 712, p.17-20 (2013)

○笛木伸彦. 畑作における塩化カリ活用の可能性. 農家の友 10月号. p.39-41 (2013)

○笛木伸彦. 「耕うん」という技術を見直そう. あぐりぽーと. 107, p.1-3 (2014)

○笛木伸彦. 水稲収穫後のほ場管理. 北海道米麦改良. (2013)

企画調整部地企画課

○竹中秀行. 北海道における技術開発の足跡と今後の展望. 機械化農業 10月号. p55-p59, (2013)

○山崎敬之. (地独) 北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場の取り組み. 農林水産技術同友会報. 56, p. 76-79 (2013)

(4) 著編書資料

遺伝資源部

○竹内徹, 長尾明宣, 南橋昭, 白井滋久編. 農作物優良品種の解説 (2005-2013). 道総研農試資料. 41, p.1-192 (2014)

○浅山聡. 付表 種苗生産の流れ. “農作物優良品種の解説 (2005-2013)”. 竹内徹, 長尾明宣, 南橋昭, 白井滋久編. 農作物優良品種の解説 (2005-2013). 道総研農試資料. 41, p.188-192 (2014)

生産研究部

○濱村寿史. 野菜の流通と販売. 北海道の野菜づくり. 北海道農業組合通信社. p. 144-148 (2013)

農業環境部

○加藤 淳. 小豆の力. キクロス出版. 2013. p.1-158

○加藤 淳. すべてがわかる! 「豆類」事典. 食材の教科書シリーズ. 世界文化社. 2013. p.1-120, p.179-190 (監修)

○加藤 淳. 土壌と肥料. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.72-103 (監修)

○加藤 淳. 土づくり Q&A 「総括編」. 北海道農業を支える土づくりパートIV. 北海道農協「土づくり」運動推進本部. 2014. p.1-191 (監修)

○富沢ゆい子. 土壌養分バランスと栄養障害. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.89-92

○富沢ゆい子. リーキ. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.208-209

○日笠裕治. 床土のつくり方と園芸培土. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.18-21.

○坂口雅己. 生育に合わせた施肥と栄養診断技術. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.75-79

○櫻井道彦. ハウス栽培における生産性の維持と土壌診断. “北海道の野菜づくり”. ニューカンントリー秋季臨時

増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.93-97.

○杉川陽一. 有機物や緑肥を活用したほ場管理. “北海道の野菜づくり”. ニューカントリー秋季臨時増刊号. 北海道協同組合通信社. 2013. p.80-83

病虫部

○清水基滋. 北海道の野菜づくり, ニューカントリー 2013 年秋季臨時増刊号. p. 121-124 (2013)

企画調整部地域技術グループ

○笛木伸彦. 北海道の野菜づくり 経営と産地のための最新栽培マニュアル 第1部第2章: 土壌と肥料 クリーン農業・有機農業と土壌肥料. ニューカントリー 2013 年秋季臨時増刊号. 2013. p. 100-103

○笛木伸彦. 良食味米を目指した土壌管理、施肥技術. 平成26年産に向けての米づくり. 北海道米麦改良協会編. 同発行, 2014. p. 86-107

○笛木伸彦. 良質小麦生産のための施肥および土壌管理. 北海道の小麦づくり. 北海道米麦改良協会編. 同発行, 2014. p. 54-88

○菅原章人. 北海道の野菜づくり 経営と産地のための最新栽培マニュアル 第2部 第2章 葉茎菜類第, 第5章 洋菜類. ニューカントリー 2013 年秋季臨時増刊号. 2013. p. 232-235,309-314

○清水基滋. 病害虫図鑑 テンサイ黒根病. 日本農業新聞. 2013. 4. 10 (2013)

○小松 勉. 平成25年度に新たに発生した病害虫. 農業共済新聞. 2013. 4. 24 (2013)

○小松 勉. 平成26年に特に注意を要する病害虫. 農業共済新聞. 2013. 5. 1 (2013)

○小松 勉. メロン黒点根腐病の緊急防除対策. 農業共済新聞. 2013. 7. 17 (2013)

(5) 新聞等記事

作物開発部

○小宮山誠一. だいこん, ほっかいどう宝島, FM 北海道 (2013.11.3 放送)

○内田哲嗣. 西洋なしの半追熟出荷技術. 農業共済新聞 (2013.10.9)

遺伝資源部

○鈴木和織. 優良種子生産および出芽向上には基本技術が重要. 農業共済新聞「北海道営農技術版」. 3 月 4 週号, P17(2014)

生産研究部

○佐々木亮. 無代かき表面播種湛水出芽法による水稻直播栽培技術. 農業共済新聞 (2014. 3. 5)

○佐々木亮. 水稻乾田直播における硝化抑制剤入り肥料の施用効果. 農業共済新聞. (2014. 3. 12)

農業環境部

○古館明洋. 秋まき小麦導入で粘質たまねぎ畑の下層土改善. 農業共済新聞. (2013.7.3)

病虫部

○相馬潤. 北海道における小麦赤かび病の発生動向と防除のポイント. 日本農業新聞. 平成 26 年 3 月 24 日